

「哲学カフェ」用のレジュメ、2025年7月26日、フリージャーナリスト・今田真人

◎朝鮮人「慰安婦」強制連行は本当にあったのか——「慰安婦」問題を哲学的に考える

☆基本文献

- ・吉田清治著『私の戦争犯罪——朝鮮人強制連行』（1983年、三一書房）
- ・吉田清治著『朝鮮人慰安婦と日本人』（1977年、新人物往来社）
- ・拙著『吉田証言は生きている』（2025年、共栄書房）
- ・今田含む共著『「慰安婦」問題の現在——「朴裕河現象」と知識人』（2016年、三一書房）
- ・拙著『極秘公文書と慰安婦強制連行』（2018年、三一書房）
- ・今田の講演録パンフ『嫌韓ナショナリズムと植民地主義——「慰安婦」「徴用工」問題の研究を踏まえて』（2020年、研究所テオリア）

①「歴史修正主義」の典型、秦郁彦氏の否定論（裏づけ証言がなければ、歴史事実は存在しないのか）

- ・『慰安婦と戦場の性』（1999年、新潮社）

→拙著『吉田証言は生きている』P157～「第四章 秦郁彦『慰安婦と戦場の性』の検証」で詳しく反論している。

～私（今田）の中心的な反論「第3節 裏どり証言がないだけで、証言を「ウソ」と断定する手法——（秦氏の済州島の現地調査を報じた産経新聞92年4月30日付は）秦氏が『貝ボタン組合の役員をしていたなどという何人かの老人たちと会い、確かめたところ、吉田氏の著作を裏づける証言は得られなかった』ということや、『吉田証言』について、済州島現地の新聞記者（許栄善氏）が一部の地元民を調べ、裏づけ証言をする人が『ほとんどいない』という結果だったということだけである。いわば、歴史研究者として証拠（被害・目撃証言）が見つからなかったといった、あまりニュース価値のない研究失敗の『発表』である」（P164～）

→この否定論の手法は、朝日新聞の「検証記事」（2014年8月5、6日付）でも同じ。「『済州島で連行』証言、裏付け得られず虚偽と判断」「読者のみなさまへ——吉田氏が済州島で慰安婦を強制連行したとする証言は虚偽と判断し、記事を取り消します。当時、虚偽の証言を見抜けませんでした。済州島を再取材しましたが、証言を裏付ける話は得られませんでした。研究者への取材でも証言の核心部分についての矛盾がいくつも明らかになりました」

→哲学的には、この論法は唯物論（史的唯物論・唯物史観）に反する。歴史的事実は、それを語る被害証言や目撃証言、あるいは加害証言、また公文書がなくても、存在する。それを実証的に示す仕事が本来の研究者やジャーナリストの仕事である。

②否定論への反証（政府は隠しているが、歴史的事実を裏付ける政府公表の公文書が存在する）

- ・「河野談話」発表当時に政府が公表した関連公文書（1993年8月4日に第2次調査結果）——Wam（アクティブ・ミュージアム「わたしたちの戦争と平和資料館」）のHPから閲覧可能

「いわゆる従軍慰安婦問題の調査結果について」（公文書リスト）の中の「国立公文書館関係」のNo.16、19、20。とくにNo.20が重要。

→No.20「朝鮮総督府部内臨時職員設置制中を改正す」（昭和19年7月12日）

～この内容などは、後に復刻本が発行されたが、それに注目し、他の関連公文書と合わせて暴露したのが、拙

稿「朝鮮人女性『年間１万人』強制連行の動かぬ証拠」（『週刊金曜日』２０１５年１２月１１日号）。

～これら公文書の復刻写真を掲載したものが今田を含む共著『「慰安婦」問題の現在——「朴裕河現象」と知識人』（２０１６年、三一書房）

～No.２０の公文書は内務省提出の公文書を当時の東條英機内閣が「閣議了解」したもの。その元になっているのは、朝鮮総督府が作成した公文書（今田が外交史料館で発見したもの）であり、内容は同じであり、それを昭和１９年６月２０日に当時の担当省庁である内務省に送り、内務省が内閣に送る形をとった。つまり、この文書は植民地・朝鮮を管轄していた朝鮮総督府自身が作成したものであり、信憑性が高い。拙著『極秘公文書と慰安婦強制連行』（２０１８年、三一書房）などに収録。

・その中には以下の一覧表があり、これが決定的である。

昭和１９年度内地樺太南洋移入朝鮮人労務者供出割当数調			
道名	昭和１９年度割当数		備考
	男	女	計
京畿道	39,550	1,450	41,000
忠清北道	14,500	500	15,000
忠清南道	33,800	1,200	35,000
全羅北道	37,700	1,300	39,000
全羅南道	43,400	1,500	44,900
慶尚北道	44,800	1,600	46,400
慶尚南道	38,250	1,350	39,600
黄海道	8,900	300	9,200
平安南道	1,300	—	1,300
平安北道	1,800	—	1,800
江原道	23,200	800	24,000
咸鏡南道	1,800	—	1,800
咸鏡北道	1,000	—	1,000
合計	290,000	10,000	300,000

内地樺太南洋移入朝鮮人労務者渡航状況						
年度別	区分	国民動員	募集許可	募集許可	渡航者数	備考
		計画ニ依 ル計画数	(幹旋) 申請数	(幹旋割当) 数		
昭和	内地	85,000	52,131	52,131	49,819	
14年度	樺太	—	6,466	6,446	3,301	
	南洋	—	—	—	—	
	計	85,000	58,597	58,597	53,120	
昭和	内地	88,800	65,870	65,870	55,979	
15年度	樺太	8,500	4,510	4,510	2,605	
	南洋	—	1,150	1,150	814	
	計	97,300	71,530	71,530	59,398	
昭和	内地	81,000	67,638	67,638	63,866	
16年度	樺太	1,200	1,521	1,521	1,451	
	南洋	17,800	2,169	2,169	1,781	
	計	10,000	71,328	71,328	67,098	
昭和	内地	120,000	117,410	117,410	111,823	
17年度	樺太	6,500	6,500	6,500	5,949	
	南洋	3,500	2,150	2,150	2,083	
	計	130,000	12,060	126,060	119,851	
昭和	内地	150,000	145,125	145,125	100,252	
18年度	樺太	3,300	3,300	3,300	3,473	割当数ハ4月末現在
	南洋	1,700	1,700	1,700	649	渡航数ハ2月末現在
	計	155,000	150,125	150,125	103,374	
昭和	内地	290,000				
19年度	樺太・南洋	10,000				
	計	300,000				

・さらに以下の記述もある。

「第五 国民徴用ニ関スル事務ニ従事スル者ノ増員説明……生産増強労務強化対策……女子遊休労力の積極的活用ヲ図ル為左ニ依リ措置スルコト（イ）女子ノ特性ニ適応スル職種ヲ選定シ新規学校卒業者及年齢１４年以上ノ未婚者等ノ全面的動員体制ヲ確立スルコト 右ノ措置ニ関連シ之ガ勤労管理其ノ他諸施設等ニ付特別ノ考慮ヲ為スコト

（ロ）労務調整令ヲ改正シ接客業、娯楽業等ニ於ケル女子青少年（概ネ年齢12年以上25年未満ノ者）ノ使用制限ヲ実施スルコト尚此ノ場合労務調整令ノ適用ヲ受ケザル女子青少年ニシテ警察取締ヲ受ケル者ニ付テハ本件ニ準ジ之ガ取締ヲ強化スルコト」

「第六 経済統制ニ伴フ警察事務ニ従事スル者ノ増員説明……本年度（19年度）以降ハ徴兵令ノ実施ニ伴フ壮丁ノ徴集アル等加速度的ニ労務ノ量的逼迫ヲ来タスト共ニ一面半島ニ於ケル民衆ハ民度低キ為ニ戦時下ニ於ケル労務ノ重要性ニ対スル認識猶ホ浅ク勤労報国隊ノ出動ヲモ齊シク徴用ナリト為シ一般労務募集ニ対シテモ忌避逃走シ或ハ不正暴行ノ挙ニ出ズルモノアルノミナラズ未婚女子ノ徴用ハ必至ニシテ中ニハ此等ヲ慰安婦トナスガ如キ荒唐無稽ナル流言巷間ニ伝ハリ此等悪質ナル流言ト相俟ツテ労務事情ハ今後益々困難ニ赴クモノト予想セラル」

③否定論への反証（**秦郁彦氏は認めようとしませんが、済州島現地の「慰安婦」強制連行については、多数の目撃証言・被害証言がある**）

・吉方べきりポート週刊金曜日2015年6月26日号『『慰安婦狩り』を現地はどう受け止めたのか——知られざる済州島地元紙の『吉田証言』報道の中身』

・共著『『慰安婦』問題の現在——「朴裕河現象」と知識人』の中の拙稿『『吉田証言』は本当だった——公文書の発見と目撃証人の登場』

この目撃証言をした在日コリアンAさんのさらに詳しい証言内容は以下の通り。

～在日コリアンAさん「（1931年生まれ、現在生存であれば91歳）の証言（2014年7月5日に1回目を証言、1回目は来日した4・3事件を取材する韓国・済州島の研究者によるインタビューなので韓国語で証言。通訳と聞き手は在日コリアンBさん。2回目以降は在日コリアンが在日コリアンAさんの在所に訪問し聞いた内容。おそらく会話は日本語だと思われる）

・「故郷の済州道●●村で、小学5・6年の頃、ある結婚式の進行中、日本人が車で来て、新婦を強引に連れ去った事件があった」「その後の行方は分からないし、どうなったのか分からない。日本人は一団としてトラックで来ていたので（被害者側は）何も言えなかった」「（質問者＝来日した韓国・済州島の研究者●●さん＝が「警察に訴えればよかったのに」と言う）と）そういうことを言える時代ではなかった」（以上が1回目）

「（在日コリアンAさんは、個人宅の庭で開かれた）結婚式に座っていた。母親は1カ月、泣き通しだった。連れ去られるので早く結婚させたかった。（連行の）対象者であったので、毎日のように日本人のヤクザがきた。集団で来る。自分（在日コリアンAさんのこと）が12歳か13歳のときのことである。連れ去られた新婦は（在日コリアンAさんの）遠縁のお姉さんで、（在日コリアンAさんは）いろいろとかわいがってくれた。お菓子をもらったりした。これ（共著『『慰安婦』問題の現在』（三一書房、在日コリアンBさんを通じて在日コリアンAさんに贈呈））だけで十分だ。いまの情勢を見ると、よくない。反対派の言うこと（差別発言）がわずらわしい」「結婚式で新婦が連れ去られたことは、目の前で見た。新婦の名前は知らない。それによって、いろいろな余波が起きるといけない。済州島の中では、連れ去らされたことは、みんな知っている。1965年以後、過去のことには一切口をつむごう。そうしないと日本人観光客は一切こなくなるだろう。おコメもできない島、4・3事件もあった。そういうことがあったと被害をさらけ出さないでいいのでは、そういう雰囲気がある。恥ずかしいという気持ちがある」